

2009年2月13日
久留米大学 原邦夫

2009年2月12日第2回日本HIA研究会の報告

昨年発足した日本HIA研究会の第2回の会が、2009年2月12日、九州大学大学院医学研究院医療経営管理学講座演習室で行われました。雪のため飛行機が遅れたベン・ケイブ先生の発表が最後となりましたが、逆に藤野先生の健康影響評価・HIA入門の話が前に来て、HIA入門から日本の実践例そして英国の実践例の報告とつづき、HIAについて初めて話を聞く参加者にとっても有意義な会になったのではないかと感じるものでした。ベン・ケイブ先生は社会人類学および公衆衛生学を修め、様々な影響評価を行うコンサルタント会社・Ben Cave Associateの代表であり、クイーンメリー大学の客員研究員、WHOやIAIA学会の健康部門の議長を担っています。

まず石竹達也先生から、日本でのHIAは始まったばかりであり一緒に取り組んでいきたいと思いますとの挨拶を受け、藤野善久先生からHIAの入門の話があり、本題の「企業活動におけるHIAの取り組み」の報告がありました。産業医大の卒業生のネットワークを活用し、企業活動をあらためてHIAの視点から考えて企業活動はやはり労働者およびその家族、地域社会の健康に影響を及ぼすことを示し、とくにM社および関連会社の労働者に対する不平等感をなくす労働衛生活動の導入にHIAを適用した事例の報告がありました。産業医の活動にHIAが広がりを持たせる可能性を示した報告でした。

次に、星子美智子先生が「中核市移行についてのHIAの適用例」と題し、2008年4月に中核市になった久留米市に対し、中核市移行期の市民の健康への影響を評価した報告をおこないました。久留米市では中核市に伴って新たに保健所が新設されるなど多くの事業が導入され、特に市職員の健康へネガティブな影響があること、校区保健師の活用などが望まれるなどとの助言をまとめたことの報告がなされました。

つづいて原が、「某市立総合病院の経営形態移行に対するHIA適用計画」と題し、2010年4月に地方独立法人化する予定の某市立総合病院に対して、経営形態の移行に伴う市民・患者さん・職員への健康影響を評価するHIA適用研究の研究計画を紹介しました。

最後に、ベン・ケイブ先生が、「HIAと地域保健活動、HIAと環境影響評価」と題し、HIAでの研究者・実践家の役割が非意図的あるいは潜在的な健康影響因子を特定することにあること、社会心理的健康決定因子の考え方は様々な要因があることを紹介した点では良かったが逆に何が重要なのかを曖昧にした側面も指摘されていること、英国でのHIAおよび環境影響評価などの法規制の現状、公衆衛生として地球温暖化・メンタルヘルス・運動の3テーマが重要になっていること、ヘルスサービス・ヘルスプロモーション・健康増進の3つの展望が必要なこと、そして、地下鉄の混雑緩和再開発へのHIAの適用事例報告、道路混雑緩和を中心とするロンドン市内の地域再開発へHIAを適用し最終提案まで示した事例報告、などを紹介されました。

20名弱のこじんまりした研究会でしたが、際限なく議論が続きそうになるようなやりとりが各発表後にあり、大変楽しいものとなりました。

プログラム

14 : 00-14:10

挨拶

石竹達也(久留米大学医学部環境医学講座)

14 : 10-15:00

HIA と地域保健活動

HIA と環境影響評価 (環境系の出席予定者がいれば事前に依

頼する)

Ben Cave (Ben Cave Associate)

15 : 00-15:30

中核市移行についての HIA の適用例

星子 (久留米大学医学部環境医学講座)

休憩 (15分)

15 : 40-16:10

某市立総合病院の経営形態移行に対する HIA 適用計画

原邦夫 (久留米大学医学部環境医学講座)

16 : 10-16:40

企業活動における H I A の取り組み

藤野善久(産業医科大学公衆衛生学教室)

16:40-17:10

討論